

## 『学校の新しい生活様式』に基づく学校運営・教育活動の推進～With コロナ～

はじめに

12月に入り北海道では札幌を中心に新型コロナウイルスの感染拡大がやや鈍化傾向にあるものの、全国的には拡大傾向であり決して予断を許さない状況である。実際に、札幌市以外で感染拡大傾向の地域が見られ、連日北海道のどこかでクラスターが発生しているとともに、どこで感染したのかわからない経路不明者も一定数いることから、引き続きの感染対策の徹底が求められる。

今後さらに寒さが本格化し、より乾燥が進みウイルスにとって不活性化しにくい季節が続く。気を緩めることなく感染症対策をしっかりと行うことと、児童への指導や家庭への協力依頼等も強化していくことが肝要である。

専門家の指摘により「換気が不十分なところ」「多数での飲食や会食（長く声を出す）場」でクラスターが発生している。そこで冬場であるが「換気」をはじめ、「乾燥対策」「マスク着用」「手指消毒」「大声を控える」「密集、密接を避ける」等を重点として、感染症対策を徹底していく。

## 1 基本的な対応及び指導について

### 【感染症対策の3つのポイント】

●感染源を絶つこと ●感染経路を絶つこと（手洗い、マスク、消毒等） ●抵抗力を高めること

### 【集団感染のリスク対応】

●換気の悪い密閉空間      ●多数が集まる密集場所      ●間近で会話や発声をする密接場面  
⇒できる限り「ゼロ密」を目指す（「3つの密」を避ける）

### （1）基本的な感染症対策のための取組（確認事項）

①校舎内の清掃・消毒（日常の清掃を中心に清潔な空間を保つことが重要。）【キレイを保つ！】

【主にスクール・サポート・スタッフが担当するが、日常清掃は全児童、全職員も行う】

※手が触れる箇所を中心に日常的に清掃・消毒を行う（上靴の消毒も）

➡特に共有部分：ドアノブ、手すり、スイッチ、蛇口、トイレのレバー、机、椅子、棚

➡その他共用の用具：体育用具、掃除用具、教材・備品等

➡上記について毎日（朝、放課後）及びその都度消毒を実施する

※市販のハイターやブリーチを使用する際は、必ずビニール手袋、マスク着用

②手指消毒・手洗いの徹底（流水と石鹸で30秒）

【手洗い主な6つのタイミング】（今までも行っていたこと）

- ・外から教室（校舎内）に入るとき      ・咳やくしゃみ花をかんだとき
- ・給食の前後（両方とも）      ・掃除の後      ・トイレの後
- ・共用の部分、共有のものを触ったとき

➡休み時間や活動ごとに手洗いをする習慣を徹底して身に付けさせる

③マスクの着用（咳エチケットの徹底） ※運動や体育の際は「3密」を避けた上でマスクは不要

➡基本、常時マスクを着用すること。（食事中以外は原則マスク着用）

④健康管理（登校時の検温、朝の健康チェック、健康観察シートの継続）

➡発熱や風邪症状が見られる場合は、保健室で待機、早退（自宅療養）

➡抵抗力（免疫力）を高める。（「十分な睡眠」「適度な運動」「栄養バランス」）

⑤3つの密（密閉・密集・密接）を避ける（換気の徹底）

・「密閉」空間の回避（換気の徹底）【朝から開けておく！】

➡2方向以上の窓等を同時に開け、常時換気。冬場は5～10cm位 朝から開けておく。

※常時換気が難しい場合は、最低でも30分間に1回以上換気、数分間程度は実施する。

・「密集」の回避互いに手を伸ばしても届かない距離の確保【近づかない！】

➡できるだけ2m（最低1m）以上空ける

・「密接」の場面への対応【向かい合わない！】【触らない！】

※向かい合っただけの会話や発声は避ける。しても短時間ですます。

➡基本的に常時マスク着用。会話や食事は距離を空け、向かい合わない。

➡フェイスシールド、マウスシールドの使い方の工夫。

## ⑥乾燥対策（湿度 40%～60%）

・加湿空気清浄器は24時間稼働。（給水を忘れずに・・・1日回以上）【潤いを保つ！】

・バケツ式加湿の活用。（霧吹き）

## （2）児童への指導

①新型コロナウイルスに関する正しい知識や予防等の指導（日常の保健指導）

○「新型コロナウイルス感染症の予防」（文科省：保健教育指導資料）を使用し、児童自らが正しく判断して行動できるように発達段階に応じた指導を行う。

【主な指導事項】

・新型コロナウイルス感染症とは？ 予防法とは？（正しい理解、感染リスク、予防行動）

・正しい手洗いの仕方とは？（手指で目、鼻、口をできるだけ触らない指導も）

・咳エチケットと正しいマスクの付け方とは？

・「3つの密」を避けるとは？

・正しい情報を得るには？

・「新しい生活様式」について触れ、自分の生活スタイルを見直し、改められるようにする。

・新型コロナウイルス感染症に関して、**偏見・差別・いじめ・誹謗中傷をしないこと**の大切さについて随時考えさせ、確認する。

②必要な持ち物の指導【清潔なハンカチ、ティッシュ・マスク・マスクケース等】

## （3）家庭、地域との連携・協力

①健康観察シート等の取組の継続（朝夕2回の検温）

➡発熱、風邪症状がある場合等は自宅休養することを周知する。【出席停止扱い】

➡同居家族の健康状態確認の協力（レベル2、3地域の場合は同居家族に発熱、風邪症状がある場合は、本人が無症状でも自宅休養）【出席停止扱い】

②「新しい生活様式」の実践への理解と協力を努める。（特に、家庭での実践）

➡**家庭内感染が大きな割合を占めるので、家庭での感染予防対策の必要性を伝えていく。**

③新型コロナウイルス感染症対策等、情報の共有に努める。

・各種通信、お知らせ文書、ホームページ等の活用

④学校行事等の延期、中止等の理解と協力を努める。

（実施の判断基準は、リスク低減可能と児童にどれだけプラスになるかを優先する）

・人数制限をかけて実施する場合のしばらくは【レベル2までは】下記を目安にする。

体育館：50～60人程度（最大70人程度） 図書室：10～15人程度（最大25人程度）

教室：7～10人程度（最大20人程度）

## 2 「新しい生活様式」実践例（厚生労働省作成資料参考）

①一人一人の基本的感染症対策

○**感染防止の4つの基本** ①身体的距離の確保 ②マスクの着用 ③手洗い ④換気

□人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。

□遊びに行くなら、屋内より屋外を選ぶ。屋内は換気の徹底。

□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。

□外出時、屋内にいるときや会話をするときは、症状がなくてもマスクを着用する。

□家に帰ったらまず手や顔を洗う。できるだけすぐ着替える、シャワーを浴びる。

□手洗いは30秒程度かけて水と石鹸で丁寧に洗う。（手指消毒液の使用可）

※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

○移動に関する感染対策

□感染流行地域からの移動、感染流行地域への移動は控える。（札幌市の往来は極力避ける）

□帰省や旅行は控えめに。出張は止むを得ない場合に。

□発症したときのため、いつ誰とどこで会ったかメモにする。

□地域の感染状況に注意する。（正確な情報収集）

**②日常生活を営む上での基本的生活様式**

□まめに手洗い・手指消毒 □咳エチケットの徹底 □こまめに消毒

□身体的距離の確保（できるだけ2m、最低でも1m）

□「3密」の回避（密集、密接、密閉）（特に換気の徹底） □乾燥対策（湿度40%～60%）

□毎朝体温測定、健康チェック（発熱、風邪症状は無理して登校しないで自宅で療養）

**③日常生活の各場面の生活様式（食事）**

□対面ではなく横並びで間隔を空けて座る。

□料理に集中、おしゃべりは控えめにする。

□多人数での会食は避ける。

3 「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い教科活動	自由意思の活動・学校給食（部活動等）
レベル3 爆発的な拡大	できるだけ2m程度（最低1m）	行わない	個人や少人数でのリスクの低い活動で短時間の活動に限定
レベル2 感染者の急増 感染者の漸増	1mを目安に学級内で最大限の間隔	リスクの低い活動から徐々に実施（増加傾向の時は逆）	リスクの低い活動から徐々に実施し、教師が確認の徹底
レベル1 感染の散発的発生	1mを目安に学級内で最大限の間隔	十分な感染対策を行った上で実施	十分な感染対策を行った上で実施

※10月28日より「レベル2」。11月7日以降も当面「レベル2」であるが、

今後の感染状況しだいでは「レベル3」の可能性あり。

4 学習指導に係る留意事項

(1) 指導事項（指導計画）

①上記のレベル3の場合は、感染リスクの高い学習活動（★印）等は一時的に控える。

そのために指導順序の変更や各教科等の指導計画の見直しを検討し、必要な措置を講じていく。

②臨時休業期間中等に課した「家庭学習」や「遠隔授業」で取り扱った内容については、補充授業や個別の補習（居残り指導）等を行い、十分な学習内容の定着に努める。

③教師による適切な事前・事後指導と家庭における学習の組み合わせによる指導計画の見直しや工夫を図り、効果的・効率的な学習指導により児童の学習内容の定着に努める。

【感染リスクが高い学習活動（例）】

※★印の特にリスクが高いものは、「レベル2」までは感染対策を徹底した上で実施可能だが、特に「換気」「人同士の距離」「向かい合わない」「マスク等の着用」を徹底する。

また、活動前後の「手洗い（手指消毒）」「物の消毒」を徹底する。

- 各教科等共通：長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等、  
近距離で一斉に大きな声で話す活動★

※マスク着用していても、屋内で一斉に大声を出す活動は控える。

- 理科：近距離で活動する実験や観察

- 音楽：室内で近距離で行う歌唱指導及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏★

※歌唱はマスク着用。マスク着用でも前後、左右ともに2m（最低1m）空ける。

近距離での大声を徹底的に避ける。立って歌う子と座っている子が混在しないようにする。

連続した練習時間はできるだけ短くする。（15分以内）

常時換気。窓は対角方向に2箇所以上開ける。

※リコーダーや鍵盤ハーモニカはフェイス（マウス）シールドを着用。

それ以外は歌唱指導に準ずるが、児童同士の間隔は最低2mとする。

- 図工：近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動

- 家庭：近距離で活動する調理実習★

※調理実習の際マスク着用。手洗い（手指消毒）の徹底を図る。

試食の際は、座席の間隔を十分に空けて、できるだけ短時間で済ます。

- 体育：児童が密集する運動★ 近距離で組み合ったり接触したりする運動★

※1学期は水泳学習は実施しない。2学期は感染症対策のもと実施。（2回実施）

※スキー学習はバスでの移動時間が長いが感染症対策した上で実施。（3回中1回のみ実施）

バスでは、座席間隔を十分に空けたり、定期的に換気したりし感染対策を徹底する。

昼食時については、座席を離すなど感染対策を徹底し、できるだけ短時間で済ます。

※ボール運動は、直接に手に触れる場合は、前後の手洗い（手指消毒）を徹底する。

道具についてもできるだけ前後に消毒する。

- 総合的な学習の時間：交流活動、訪問活動など他者との交流が多くある活動

- 運動会、学芸会等密集して長時間活動する学校行事

※運動会は9月に規模縮小、来賓なしで実施。

※学芸会は児童の演目のみで。入場制限あり（70名まで）来賓なしで10月に実施。

※長万部小との合同宿泊学習は10月に延期し実施予定。バス2台で対応。

※遠足は春も秋も中止。

- クラブ活動、児童会活動：「密集」「密着」するような活動（上記内容に準ずる）

## (2) 学習評価

- ①3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）による適切な学習評価に努める。

・「知識・理解」：ワーク、テスト、作品、発表物、発言等による組み合わせにより評価する。

・「思考・判断・表現」：ワーク、テスト、論述、発表、作品の制作や表現等による組み合わせにより評価する。

・「主体的に学習に取り組む態度」：ノートやワークや発表物、発言、行動観察などで評価する。

※学年末評価及び評定の基本データとして、適切に記録を蓄積しておく。

- ②家庭学習で取り組んだものと補習授業での対面指導等による評価を組み合わせ適切に評価



していくことは可能だが、今後臨時休業がなければ、今まで通り授業での評価を基本とする。

## 5 その他

### (1) 体育や運動時のマスク

- ①体育や遊びなどの運動時は原則マスクは着用しなくてよいが、その際児童の間隔を十分に確保したり、会話や発話は対面で行わないようにする。
  - ・児童がマスクの着用を希望した場合は、着用したままでも構わないが十分に注意する。  
(息苦しくなっていないか呼吸や顔色など体調に十分注意して観察する。熱中症対策も)
  - ・教師は原則マスクを着用するが、模範運動を示す際など外してもよい。なお、マスク外す際は発話は最小限にし、児童との距離も2m以上確保する。

### (2) 校外学習、校外活動、体験学習

- ①不特定多数の人の出入りがある場所での校外学習等は感染症対策によっては可能とする。
  - ・老人施設の訪問やお年寄りとの交流活動は今年度は原則実施しない。(重症化リスク回避)
- ②バス等での移動の際は、間隔を空けて座り、窓を開けて換気する。
  - ・長距離となる場合、感染症対策が取れば可能とする。
- ③実施にあたっては屋外であってもマスクを着用し、十分な感覚を確保する。
- ④講師に来校していただく体験学習等は感染症対策の上で実施する。

※レベル3の場合は出前授業など、外部講師などの活用は見合わせる。また、学校から外部に出かける活動も見合わせる。

## 6 基本的な一日の流れと対応

	対応等	担当
登校時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクの着用 (向かい合って会話はしない)</li> </ul>	担任
登校 ( ~8:00) (玄関・ホール)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関での手指消毒(手洗いしてればしなくても可)</li> <li>・マスク着用のチェック:なければ配付</li> <li>・体温チェック:測ってなければ検温(レベル2まで)</li> <li>※レベル3は全員検温実施</li> <li>・健康状態のチェック:口頭で確認</li> <li>※レベル2以上は同居家族の健康状態の確認</li> <li>➡発熱、風邪症状の場合は保健室で待機 保護者に連絡して迎え、早退(自宅休養)</li> </ul>	全職員 (主:担任)
朝運動 (8:00~8:10) (体育館・グラウンド)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館:換気(対面で2箇所の窓は開ける)</li> <li>・「密集」「密接」する運動は当面しない</li> <li>・マスクは基本着用しない(飛沫に注意)</li> <li>⇒運動後は「手洗い」「うがい」「水分補給」</li> <li>⇒用具等の消毒(担任、本田 SSS)</li> </ul>	担任
朝学習 (8:15~8:25) 朝の歌・朝の会 (8:25~8:40) ※毎週火曜日の フッ化物洗口は中止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室:換気(窓と戸を開ける)(<u>常時2方向開ける</u>)</li> <li>・加湿空気清浄器の作動確認(<u>24時間稼働</u>)</li> <li>・机の距離を十分に空ける(1mを目途に最大限)</li> <li>・マスク着用の確認</li> <li>・向かい合っただの会話は避ける</li> <li>・朝の歌は原則体育館で(距離を取るため)</li> </ul>	担任

	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の確認、<u>同居家族の健康状態の確認</u></li> </ul>	
授業中	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室：換気の徹底（<u>常時2方向を開けるが基本</u>）</li> <li>机の距離を十分に空ける（1m目途に最大限）</li> <li>マスク着用の確認</li> <li>向かい合っでの会話、発声等は避ける</li> <li>教材教具、用具等個人の貸し借りはしない</li> </ul> <p>※感染リスクの高い学習活動は「密閉」「密集」「密接」を避け、感染症対策を徹底した上で実施する。 ⇒教材・教具等の用具の消毒（SSS）</p>	担任
5分休み	<p>⇒トイレ後の「手洗い」の徹底 ⇒こまめな「手洗い」「うがい」「水分補給」（共有の用具や教材に触れた前後の「手洗い」）</p>	担任
中休み （10：15～10：30） 昼休み （12：45～13：00）	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内：換気（2方向）</li> <li><u>接触する遊びは、手袋着用等の工夫を</u></li> </ul> <p>⇒遊んだ後は「手洗い」「うがい」「水分補給」 ⇒用具等の消毒（SSS）</p>	全職員
給食・歯みがき （12：10～12：45）	<p>⇒給食前後の「手洗い」の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図書室（給食ルーム）：換気（窓と戸を開ける）（窓は廊下側1箇所、教室は2箇所開ける）</li> <li>配膳者の身支度確認 ・配膳の工夫</li> <li>距離を取り、同一方向での摂食（対面はしない）</li> </ul> <p>※食事中はできるだけ会話を控える。 <u>※透明仕切り坂を使用し、飛沫拡散を防止する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歯みがきの際も<u>できるだけ距離を空けたり、場所を変えたりする。複数の手洗い場を分散して使う。</u></li> <li><u>※手洗い場の掃除や消毒徹底する。</u></li> </ul> <p>⇒給食ルームの消毒（主：本田スクサポ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃場所：換気（天気の良い日は全開）</li> <li>マスク着用の確認</li> </ul>	全職員
昼清掃 （13：05～13：20）	<p>⇒清掃後の「手洗い」「うがい」の徹底 ⇒清掃用具等の消毒（SSS）</p>	本田スクサポ
下校 （玄関・ホール）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「密集」「密接」しないようにする</li> <li>マスク着用の確認（玄関での手指消毒）</li> </ul>	担任 （全職員）
下校後（放課後） 校舎内消毒	<p>⇒清掃・消毒作業（手が触れる箇所を中心に） ドアノブ、手すり、スイッチ、蛇口、机、椅子など その他触れた用具など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教室等：児童下校後を中心実施</li> <li>図書室：給食後</li> </ul>	本田スクサポ  （全職員）